

Q 1 . 公園に建つ図書館のあり方とは？

- ① 公園は禁止事項ばかり多く、行政が管理して行政が運営する行政空間のようになっており、本来の姿は、市民の方が自分たちのライブラリーだと思ってもらえるようにならないといけない。
- ② 個人的なプライベートな空間と、パブリックな公共空間があるとしたら、その中間をつなぐ意味合いが非常に重要で公園に開かれたオープンな図書館がいい。
- ③ できるだけ緑の風景を見て、その中で本を読むようなスペースを設ける。
- ④ ヨーロッパに行くと、公園で本を読むのは当たり前でごく自然な風景である。
- ⑤ 空間がオープンになればなるほど運営・管理は難しくなるから、それに対するハード的側面、対応策を事前に考えておくことは非常に重要である。
- ⑥ 本は紫外線にとっても弱いので、できればあまり光が入らないほうがいい。
- ⑦ クローズに保存したいというのはもっともだが、本を十把ひとからげにしないほうがいい。紫外線等のリスクによって本の役割をしっかりと分けて、ゾーニングやハード面での対策が必要である。

Q 2 . どんな機能・サービスが必要か？

- ① 人を育てる図書館。 いわゆる子育てを充実して、今まで足を運ばなかった親子が、別府にしかないような空間ができれば集まってくる。そのための戦略をどうするかと考えると、乳幼児や児童のためのスペースを発想のメインにするとよい。
- ② 高齢者のためには、健康寿命を伸ばすために図書館に行き、脳を活性化するという具合に、目的に特化して図書館の目玉をつくっていただくといい。
- ③ 別府は医療や福祉従事者の割合が多い。介護予防やリハビリのワークショップに役立つ何も無い空間、どうとでもなる空間というのが必要。
- ④ 大分県の障がい者アートは全国でも先駆的。医療や福祉にアシストする美術館の使い方がマッチする。要介護にならないためのアート活動や機能障害のある方たちのアートによる機能復活を図書館で実現できれば、実に別府らしい。
- ⑤ 歩いて行ける公民館や温泉に図書館機能を持たせるという発想があっていい。
- ⑥ 別府公園文化ゾーンのある場所でなければならない必然性、別府の町全体では何ができるか、どんな人を育てたいのか、どんな町づくりをしていきたいのを前提に機能・サービスを考える。
- ⑦ 象徴的な建物があるかどうか。中身としては、交流の場、学ぶ場（自己啓発の場）、サードプレイスみたいな場所をつくるということが重要である。

Q 2 . どんな機能・サービスが必要か？

- ⑧ 課題を解決するために図書館がどういうことを実現したいか、逆に別府の強みを生かすために、それを実現するために必要なサービスは何かという考え方もできる。
- ⑨ 子どもたちが別府の地場産業である観光について学び、起業につなげるための機能やサービスを提供する。
- ⑩ 別府に住んでいる人が別府のいいところを知る、発見するという意味で郷土資料を発掘するという活動そのものはどちらかというオープンな場でやっていい。
- ⑪ 地域に光を当て、いいところをみんなが知り、残していくという機能も必要である。
- ⑫ 稼ぐ仕組みを作らなければいけないし、せっかくの豊かな温泉資源を説明しやすく、また説明したくなるような仕掛けやアーカイブも大いに必要である。
- ⑬ 医療・福祉も、観光も、アートも、子どもたちも大事。それぞれが本当に豊かに生きていくためには、別府市は今後、どういうふう豊かに、本当にみんなが助け合って生きていけるのかということを考えるべく、図書館が一つのよりどころになればいい。
- ⑭ 別府にいる人が楽しんで暮らしていることを発信できる場になればいい。そうすれば、来た人が楽しくなる。
- ⑮ 別府市の大きな柱として政策があり、その政策における図書館という位置付けが重要である。

Q 3 . 別府らしい蔵書構成とは？

- ① 蔵書に関しても 医療や福祉にアシストするアート活動関連書籍を増やしていただけると、図書館美術館一体的整備としてスムーズな展開が期待できる。
- ② 子どもたちが別府の地場産業である 観光について学ぶ機能・サービスを提供する場や空間という考え方のもと、どういう蔵書構成にすべきかという 戦略的な部分に関わってくる。
- ③ 別府市の住民構成を考えたとき、 外国語の図書があると貸出頻度が増えるのではないか。
- ④ 情報やコミュニケーションのバリアフリー化が必要である。
- ⑤ 選書に関しては、策定委員会で議論するのは時期尚早。 今後、選書委員会がマーケティング調査を行い、市民のニーズ、あるいは社会の変化に対応してどんな本が必要かを議論し、方向性や将来像を見据えて、 時代の変化に対応するいい本を選ぶべき。
- ⑥ 考え方の大枠までは、方向性を出しておくほうがいい。

Q 4 . 図書館の全域サービスの考え方は？

- ① 学校との連携は意識していきたい。
- ② 物理的な全域サービスというと、どうしても狭い機能になる。ネット環境も充実している今、図書館は拠点ではあるが世界に情報がつながっていけるネットワークの機能を並行して考える。
- ③ 図書館がやるべきことと、図書館、本が果たすべき役割は違う。全ての人にチャンスをつくるいろんな書籍、デジタルアーカイブを進めていく方がいい。
- ④ 読みたい本、もしくはその人が必要とするであろう本にアクセスする具体的な方法をもっと処方的に充実させるべき。
- ⑤ デジタルアーカイブ、AI、IT等の新しいインフラを使いつつ、それでカバーできない人に対する物理的なカバー、そしてそれらをうまく組み合わせることが重要である。